

「ともに学び、ともに育つ」

～インクルーシブ教育の推進をめざして～

藤井寺市立藤井寺小学校 森本 美幸

1. はじめに

藤井寺市には7つの小学校がある。大阪府全体では支援学級の在籍状況が、ここ数年でほぼ2倍の増加となり、本市においても同様で、全児童数は減少傾向にある中で支援学級に在籍する児童は年々増加し、支援学級数も毎年2学級程度増加している状況である。在籍する児童の個性や特性は多様で、一人ひとりの「困り感」に寄り添いながらよりよい支援方法や指導方法を考え各校での実践を積んでいる。そしてさまざまな行事や取組み、実践交流会を通して、藤井寺のすべての子どもにとってよりよい指導法や基礎的環境整備、合理的配慮などについても話し合い、支援教育のよりよいあり方について研究を行っている。

藤井寺市教育委員会による10の重点教育課題のひとつに、「インクルーシブ教育の推進」が挙げられている。地域における共生社会の実現をめざし、すべての園児児童生徒、教職員及び保護者、地域に対し、支援教育の理解と啓発を図っている。そこで、本市研究会においても「ともに学び、ともに育つ」インクルーシブ教育システムの推進に向けて、個のニーズに応じた配慮・支援とそれを実施できる授業や集団づくりを実践課題に据え、関係機関とも連携しながら実りある研究会になるよう計画的に活動を行っている。

2. 支援教育部について

藤井寺市小学校教育研究会 支援教育部では、支援学級に在籍する児童や通常の学級での困り感のある児童へのよりよい支援方法、指導方法を研究するために、平成29年度のテーマを「困り感のある児童の実態を把握し、その実態に応じた指導方法を考える」と設定し次のような内容で1年間すすめている。

[活動内容]

月	日	曜日	場 所	内 容
5	10	水	藤井寺南小学校	部長・副部長の選出 部長 道明寺東小学校より 副部長 道明寺南小学校より 副部長 藤井寺北小学校より
5	17	水	藤井寺南小学校	研究テーマの設定、年間計画の作成 ～困り感のある児童の実態を把握し、 その実態に応じた指導方法を考える～

6	14	水	藤井寺北小学校	サマースクールについて検討
7	21	金	藤井寺北小学校	サマースクール
8	24	木	四天王寺悲田院 児童発達 支援センター	施設見学、講演会など
9	20	水	藤井寺西小学校	研修会『「変(代)える」で「変わる」 ～未来につながる支援』 同志社大学法学部 梶山 玉香教授
11	1	水	道明寺東小学校	実践交流会 「通常の学級での困り感のある児童への 支援について」
2	7	水	道明寺東小学校	年間のまとめと反省

長年取組んできたものとして、小規模な市であることを活かし、全支援学級による交流活動を行い、児童個々のコミュニケーション能力の向上をめざしてきた。春には親睦を深める「なかよし遠足」、夏はふれあいを大切にする「サマースクール」、そして秋には中学校進学後のことを見据えた「藤井寺市小中支援学級交流会」、冬には日ごろの活動を、作品を通じて認め合う「なかよし作品展」がある。さまざまな活動を通して、友だちと関わろうとする意欲が高まったり、伝えたい気持ちをそれぞれの方法で表したりする様子が見られることから、コミュニケーション能力が身につくと思われる。

また今年度は「困り感のある児童の実態を把握し、その実態に応じた指導法を考える」をテーマに各校の実践交流会や施設見学、講師を招いての学習会を行っている。支援学級在籍の児童はもとより、学校生活の様々な場面で困り感のある児童に対する支援を考え、すべての児童に「ともに学び、ともに育つ」場をサポートする方法を探る研究を進めている。今年度は藤井寺市在住の乳児、幼児、児童の発達支援を行っている羽曳野市にある「四天王寺悲田院児童発達支援センターの施設見学」を実施した。また、自らも発達に課題がある子どもの子育て経験がある、同志社大学障がい学生支援室室長で同志社大学法学部 梶山 玉香教授をお招きし「校種を超えた継続的な支援・子どもの将来を見つめて」の視点で研修会を行い、児童が成長の過程で関わるさまざまな方の思いや願いを知ることによって、より研究が深まってきた。

「実践交流会での話し合いの様子」



3. 藤井寺市支援学級の交流活動行事

(1) なかよし遠足

本市では、藤井寺市内小学校の支援学級在籍児童が参加する「なかよし遠足」を毎年実施している。保護者にも、児童が参加する姿を参観してもらうと共に、保護者同士の親睦を深めるために、参加を呼びかけている。

今年度のめあてとして、他校の仲間との交流を通して児童が主体的に「いろいろな友だちと交流する」こととし、例年通り大阪府立大型児童館ビッグバンに遠足に行った。

毎年実施場所を同じところにするすることで、天候を気にせず、高学年の児童が低学年の児童に遊び場所や遊び方を教えたり、自分なりの見通しをもって活動したりすることができた。

(2) サマースクール

夏休みに入ってすぐに行われる午前中だけの行事である。市内1校の体育館に集まり、前半はプールでの水遊び、後半は体育館で模擬店が開かれる。市内7校の児童相互間の交流を図るだけでなく、保護者や児童の小学生以下の兄弟姉妹、また7校の教師全員が参加する、祭りのようににぎわいの行事となっている。

模擬店は「わなげ遊びとスポーツドリンク」「トランポリン」「あてもの」「ヨーヨーつり」「チェキ撮影とゼリー」「ボーリング遊びとパン」「スーパーボールすくい」の7つを市内の各小学校がそれぞれ担当する。児童がチケットを持って、保護者や教師と模擬店をまわる活動を通して、自分の行きたい店に行く、店番の教師にチケットを渡すということ等が、コミュニケーション能力をより育成していくと考えられる。また、児童と通常の学級の担任と一緒に模擬店をまわることで、絆を深めるよい機会となっている。

(3) 小中支援学級交流会

毎年市内の1つの学校に、7つの小学校と3つの中学校の支援学級在籍の児童、生徒が集まり「小中支援学級交流会」を行っている。特に小学校6年生の児童にとっては、中学校進学に向けてそれぞれが見通しをもつために、中学校の教師や先輩と出会うきっかけともなる行事であるため、例年11月に開催している。

内容は、①学校紹介（中学校の生徒は校歌を披露、小学校の児童は代表者があいさつをする）

②発表（小学校はエアロビクス、中学校は合奏や日ごろのトレーニングの発表）

③中学校区別にグループになって自己紹介

④「みんなであそぼう」（ボールを使ったゲームやじゃんけんゲームなど）

⑤「みんなでうたおう」（大きな輪になり「世界がひとつになるまで」の手話歌）

となっている。市内の支援学級在籍の児童、生徒が一同に会する場はみなとても楽しみにしており、卒業生の活躍や小さいころより触れ合ってきた友だちの存在がこれからの成長の基盤となることだろう。さらには手をつないで共に力強く生きていくひとつのきっかけの行事へと発展していくことを期待している。

(4) なかよし作品展

毎年2月に富田林市文化振興事業団「すばるホール」で、南河内地区の小学校・中学校の支援学級と、地区内にある3校の支援学校（富田林支援学校、藤井寺支援学校、西浦支援学校）の児童・生徒の1年間の成果や、出品に向けて取組んだ作品を一堂に集めて展示している。自分たちのがんばった作品を多くの人に見てもらうことで今後の励みとなり、また、他校の子どもたちの作品を見ることで刺激を受け、今後の創作意欲へとつながっている。そして、中学生は後輩の作品を見て懐かしんだり、小学生は先輩の作品を見て数年後に希望をもてたりもしている。3日間という限られた期間ではあるが、展示場では他校の児童や先輩、後輩とも会えるので直接の交流の場ともなっている。子どもたちにとって、この行事も楽しみのひとつとなっている。

「なかよし作品展の様子と児童の出品作品」



4. 藤井寺市リーディングチーム（通級指導教室）

藤井寺市には「藤井寺市リーディングチーム」があり、現在4名の教員が中心となり市内の小中学校に関わる様々な活動を行っている。「藤井寺市小・中学校通級指導教室ハンドブック 教職員用」～通常学級における個別支援の充実に向けて～より、通級指導教室やリーディングチームの活

動等についての説明を抜粋する。

①通級指導…通常の学級に在籍する個別の支援を必要とする児童生徒に、発達障がいを対象とし、その障がいの特性に応じた必要な指導・支援を行っている。また、在籍校からの相談や支援を必要とする通常の学級の児童生徒への、より有効で速やかな対応も目指している。

(※通級指導教室については下記に詳細を記載している。)

〈通級指導教室について〉

(1) 指導のねらい

児童生徒の課題の改善・克服をめざして指導をする。

(2) 主な指導内容

- ・コミュニケーション能力や社会的スキルの向上
- ・言語活動、認知能力の改善
- ・運動機能の協応性や巧緻性の困難の改善
- ・心理的な安定を図るための心理的不適応の改善
- ・認知特性に応じた学習支援、教科指導の補充

(3) 指導の形態

- 1、自校通級…自校にある通級指導教室で自校の子どもに対し指導を行う。
- 2、他校通級…保護者が他校にある通級指導教室に引率して、通級指導担当者が他校の子どもに対して指導を行う。
- 3、巡回による指導…通級指導担当者が、他校へ赴き、用意された教室で指導を行う。

②巡回相談（教育相談、指導支援）…幼稚園の園長からの依頼を受けて、保育を参観し、相談を受けたり助言を行ったりする。また、対象となる園児の教育相談を行ったりもする。小・中学校においては、自校または巡回している通級指導担当者と適宜相談してすすめている。

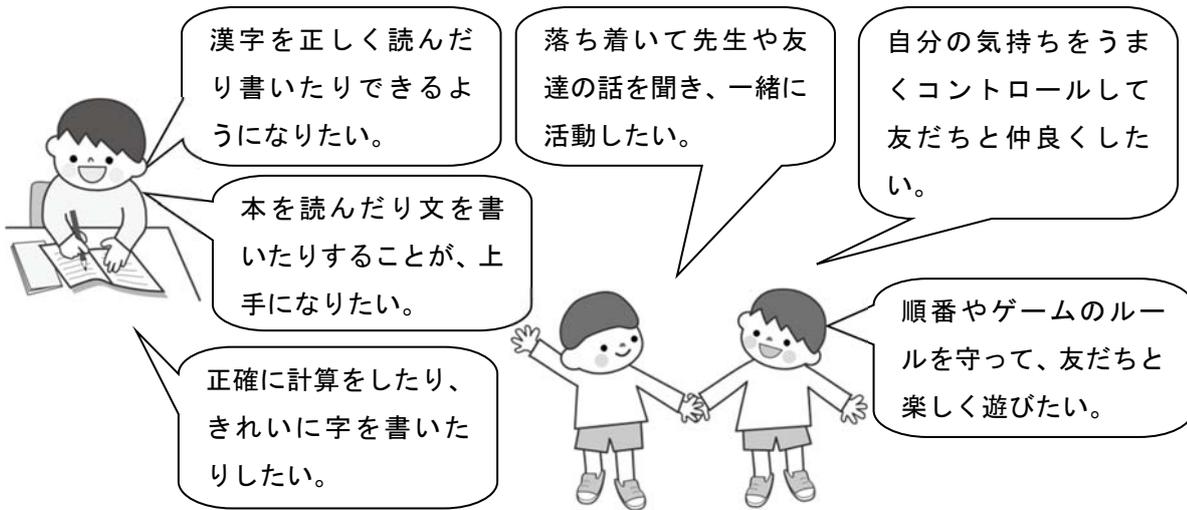
③藤井寺市リーディングチーム連絡協議会

- ・市内の通級指導担当者間の研究協議
- ・市内の通級指導担当者間の連携
- ・巡回相談や発達検査及び研修等の活動予定の確認
- ・支援教育地域支援整備事業南河内ブロック会議とリーディングチーム連絡会議の活動に参加
- ・他校通級指導教室、巡回による指導について
- ・市内支援教育研究会への支援

④藤井寺市内支援教育研修の講師…市内の支援教育に関係する研修において講師を務め、通常の学級における支援について、指導方法を広める。

☆保護者向け配布文書より

①『こんな願いをもつ子ども達をサポートする教室です』



②『こんな活動で子ども達をサポートする教室です』



5・おわりに

藤井寺市の児童が「ともに学び、ともに育つ」ために、支援教育部としてさまざまな行事や取り組みを行ってきた成果として、支援学級に在籍するほとんどの子どもたちが「人と関わるのが好き」「自分にはいいところがある」というアンケートの項目で肯定的な回答をし、年々その割合も伸びている。そのことが「自尊感情」や「自己肯定感」につながり、仲間や集団とよりよい関係を築く基盤となることだろう。その一方で、通常の学級にはまだまだ偏った考え方や個性についての理解が十分でない児童もいる現状の中、インクルーシブ教育の推進のためには、教職員がさらに研修を重ね、困り感のある児童の実態を的確に捉える力を身につける必要があると考える。そして自らが児童のモデルとなり、「ともに学び、ともに育つ」あたたかい集団づくりが不可欠である。

今年度の支援教育部の研究テーマに基づき、先日行った実践交流会では「通常の学級での困り感のある児童への支援について」話し合いを進めた。それぞれの小学校での実践例や具体的な支援方法の交流ができ、すぐに自校での実践に役立てることができた。今後もこのような機会を増やし、「ともに学び、ともに育つ」ことをみんなが意識できるインクルーシブ教育の推進をめざしたい。